

- 学び合い、かかわり合い、高まり合う  
子どもの育成
- (4) 学習指導改善調査研究後事業の検討
- ア 後事業検討委員会の目的
- 当県学校教育の重要課題である「確かな学力の向上」を図るため、県小教研としてどのようなことができるか検討する。
- イ 検討委員会の主な内容
- 県が実施する全県学力調査と学習意識調査及び、その結果を見ながら、県小教研として今まで培ってきた学習指導改善の取組を活用し、今後どのような活動を展開することが学習指導の改善を図るために貢献できるか、今後の事業内容を検討していく。

- (5) 刊行物の発行及び助成
- ア 指定研究会の「研究紀要」刊行
- イ 機関誌「研究集録 No.41」刊行
- ウ 各都市小教研の「研究紀要」等刊行助成
- (6) 各種会議の開催
- ア 評議員会：年2回(6月, 2月)
- イ 理事会：年11回(10月を除き毎月1回)
- ウ 全県地区部長会：年1回(5月)
- エ 研究部会：必要に応じて随時
- オ 研究集録編集委員会：年6回
- カ 学習指導改善調査研究後事業検討委員会：年3回(9月~3月)
- キ 県費補助事業関係事務説明会：年1回

コ ラ ム

手前講座のススメ

新潟市立関屋小学校長 小林 美智

今年度の夏季休業中からこれを始めた。講師は校内の教職員である。その理由は、一つには、昨年度来実施している月一回の実践交流会(各自が実践をA4判1枚程度にまとめて紹介する会)で垣間見る教職員の底力を、より引き上げたいこと。一つには、各自が研修会等に参加しているが、その成果を伝達したり共有したりする場や方法を確保したいこと。一つには、研修の日常化を図るためにも、隣人が師匠であり、ときには弟子という学び合う人間関係でありたいこと。そして何よりも、良き同僚と同じ目標に向かって仕事ができる喜びを実感してほしくてのことである。

近年盛んな大学や各種機関による出前講座に対し、どこか手前味噌みたいな講座だから手前講座と命名した。全員が1講座を担当する。テーマ・内容及び配当時間は各自の申告による。教務・研究主任が申告に基づき調整してプログラムを作るのである。さて、その実際はというと.....紹介したいところだが残念ながら紙面が足りない。校外研修の内容伝達にしても、限られた時間内で要点を伝えるとなると準備がいる。あたかも模擬授業を組み立てるごとく大変さを伴う。が、学ぶ側はすこぶる楽しい。発見があり、技術習得があり、テスト(振り返り)があり、仲間意識の育ちがある。

個人研修、校内研修、校外研修、県小教研それぞれがリンクし、教員の資質を高めていくための一つの方法として手前講座もなかなかよいと感じている。